

BALKAN NEWS

NO.2/2013年8月号

地域の動き

セルビア・コソボ関係改善で合意

[セルビア・コソボ情勢] 4月19日にブリュッセルでセルビア首相とコソボ首相が両国の関係正常化(normalization)に合意しました。互いにEUへの道を阻害しないことで一致したことが今回の合意に至った最大の要因です。その後、通信及び電力供給等の実務的な分野で交渉の進展がみられます。今後の交渉の争点としてはコソボ北部のセルビア系住民への限定的自治権(警察や裁判等)の付与等があります。セルビア系住民の間には自らの財産や権利、アイデンティティを守るために独自の地方議会を設置するという動きもありますが、セルビア政府はこれを支持していません。また、合意事項のひとつある恩赦法(amnesty law)の制定にコソボ議会は反対していますが、コソボ首相は合意履行に向けて議会を説得していくことが迫られています。

[EU加盟] 6月28日にブリュッセルのEU首脳会議で、来年1月までにセルビアのEU加盟交渉を開始することを決定しました。セルビアがコソボとの関係改善に取り組んだことをEUとして高く評価したことが今回の決定の背景にあります。7月1日にはクロアチアが念願のEU加盟を果たしましたが、セルビアは次のEU加盟国になることを目指しています。また、同首脳会議でEUはコソボとの間で安定化・連合協定交渉(SAP: Stabilisation and Association Process)の開始を許可することを決定しています。



ダッチ首相、アシュトンEU外交安全保障上級代表、サチ首相(Photo mia.mk)

アルバニア総選挙と政権交代

6月23日に総選挙(一院制、140議席)が実施され、社会党及び「統合のための社会主義運動(SMI)」の野党連合が合計84議席を獲得しました。旧与党の民主党は56議席に止まりました。今後、行政府では閣僚、局長、課長に至る各レベルでの任命、人事異動が予想され、本格的に新政権が始動するのは9月下旬の見込みです。



アルバニア総選挙(Photo newstribune.com)

CONTENTS

- 地域の動き P1
- セルビア P2
- ボスニア・ヘルツェゴビナ P2
- アルバニア P3
- マケドニア P3
- コソボ P3
- その他のトピック P4



For more information, please contact:

www.jica.go.jp/balkan/office/bk_oso_rep@jica.go.jp



セルビアでのJICA事業

● 西バルカン地域(セルビア、BiH、モンテネグロ)中小企業メンターサービス構築・普及促進プロジェクト

今年の5月から3年間予定しているこのプロジェクトではバルカン地域で「中小企業経営指導員(通称、中小企業メンター)」を育成し、中小企業のキャパシティ強化に繋がっていきます。メンター制度は日本の「経営指導員制度」を参考に、中小企業の企業診断やアドバイザー活動を目的に作られた制度で、JICAは2008年から2011年までセルビアでこの制度確立のためのプロジェクトを行いました。今回、セルビア以外にボスニア・ヘルツェゴビナとモンテネグロも対象に加え、さらにこの制度を普及させることを目的としています。

前回のプロジェクトで指導を受けたセルビアのメンターが講師として他の2カ国に派遣され、中小企業に経営アドバイスを行うことで、西バルカン地域全体の経済の活性化を狙うとともに、国家間の相互理解の促進に貢献することが期待されています。

7月にベオグラードで実施された3カ国合同ワークショップではプロジェクトを担う各国の関係者が一堂に会し、セルビアの経験が紹介されました。



3カ国合同ワークショップの様子



ボスニア・ヘルツェゴビナでのJICA事業

● ヘルツェゴビナ国際観光コリドー環境保全プロジェクト

ボスニア・ヘルツェゴビナの南部はヘルツェゴビナ地域といわれています。この地域にはユネスコの世界文化遺産に指定されているモスタル旧市街のスタリ・モスト地区や聖母マリアが出現したとされるメジュゴリエなど、国際的な観光地で知られています。また、文化遺産に加えて山や湖、渓谷などの自然にも恵まれていて、アウトドアスポーツやファームステイなどの多種多様な観光のポテンシャルを秘めた地域です。

バルカン地域での最大の観光地はドブロブニクやスプリットなどのアドリア海沿岸地域ですが、JICAが行うこのプロジェクトでは、ヘルツェゴビナ地域の魅力を高め、アドリア海沿岸地域の観光客を呼び込むことを目指しています。ヘルツェゴビナ地域の本当の魅力が猛暑の7-8月を挟んだ「4-5月の新緑の季節」や「9-10月の秋の収穫期」にあることは余り知られていません。新たな観光市場の開拓にプロジェクトは取り組んでいます。



現在のヘルツェゴビナ観光の目玉、モスタル市の「スタリ・モスト」

● サラエボ交響楽団への楽器引渡し式



供与された楽器による君が代の演奏

2013年5月28日、サラエボ国立劇場において、「サラエボ交響楽団楽器整備計画」の楽器引渡し式が行われました。今年90周年を迎える歴史ある楽団ですが、1992年～1995年のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の影響を大きく受け、予算の縮小、活動の停滞や楽団員の国外流出などに見舞われました。紛争後十数年が経ったものの、楽団員がプロレベルの楽器を個人で購入できる環境にはなっていません。楽団は新たに楽器を購入する予算がないため、楽団員は別の組織から楽器を借用したり、古い楽器を使用したりせざるを得ませんでした。

今回の協力は、楽団所有の楽器を整備することにより、演奏の質を高め、ボスニア・ヘルツェゴビナにおける音楽活動の推進に役立てること、また、紛争を経験した同国に対し、音楽を通じた平和への貢献を目的に実施されたものです。

2014年2月に記念コンサートを開催する予定です。

<http://www.jica.go.jp/balkan/office/information/event/130624.html>



アルバニアでのJICA事業

ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園参加型管理による保全と持続的利用プロジェクト

ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園は、アドリア海岸沿いに位置する面積約222平方キロメートル強の国立公園です。JICAはこの公園を対象に2012年4月から技術協力をを行っています。ここは多様な生態学的景観を有し、地中海松や灰色ペリカンなど希少性の高い種を含む多様な生物種の生息地となっています。環境森林水管理省のキャパシティビルディングとして、国立公園において管理計画を策定し、その実施を通じて自然資源の有効活用とエコツーリズム開発へ向けた能力を向上することを目的としています。今年5月、プロジェクトのホームページを開設しました。このプロジェクトの詳細なニュースを定期的に更新していきたいと思っています。

<http://www.jica.go.jp/project/albania/001/index.html>



地中海松と灰色ペリカン



マケドニアでのJICA事業

森林火災危機管理能力向上プロジェクト



セミナーの様子



マケドニアの森林火災 (Photo www.inpress.com.mk)

バルカン半島全域で森林火災が頻繁に発生し、その被害が深刻な問題となっています。マケドニアでも、国土面積の約38%を占める森林地帯で、過去10年間で約2400件の火災が発生し、延焼面積は9.6万ヘクタール(東京都の面積の約半分に相当)、被害総額は約60億円に及ぶと推計されています。

JICAは、2005年に設置された危機管理センター(Crisis Management Center: CMC)を支援していますが、この度、森林火災の予防と早期発見のための統合GISシステムの開発が終了し、その試験的運用を開始する会議が7月5日に開催されました。同システムは、衛星から赤外線により地表面の温度や植生乾燥度を示す地図、地上の気象観測局からの温度・湿度・風向・風速を示す地図、植物の燃えやすさを示す分布図、火災履歴や消防施設を示す地図等をGIS上に表示するものです。

今年度はシステムの改良を予定していますが、マケドニアで最も深刻な災害となっている森林火災の予防と早期発見のためにシステムが有効活用され、森林火災発生の減少が期待されます。

<http://www.jica.go.jp/balkan/office/activities/macedonia.html>

オフリド湖環境改善に係る情報収集・確認調査結果及び下水管修復技術セミナーの開催

アルバニアと接するオフリド湖は世界遺産に登録されていますが、周辺地域からの雨水や生活排水の流入のため水質の悪化が問題視されています。JICAは、2012年にオフリド湖環境改善に係る情報収集・確認調査を行いました。その結果概要と下水管への大量の不明水の浸入を解決するための技術を紹介するセミナーを7月2日にオフリド市で開催しました。

セミナーでは日本の民間企業(積水化学)を講師として招き、下水管を修復するうえで交通量の多い道路下や伝統的地域に埋設されていて開削できない場所で強みを発揮する非掘削式管渠更正法が紹介されました。このセミナーをきっかけとして日本の技術が将来、バルカン地域で活用されることが期待されます。

<http://www.jica.go.jp/balkan/office/information/event/130719.html>



非掘削式管渠更正法の一つ



コンボでのJICA事業

● 循環型社会へ向けた廃棄物管理能力向上プロジェクト関連の研修

コンボでは廃棄物の管理が深刻な環境問題のひとつとなっています。とりわけ首都プリシュティナや第二の都市プリズレンでは急速な都市化が進み、人口も大幅に増加しているなかで、ごみの収集が追い付いていません。JICAは無償資金協力によるごみ収集車の供与とともに、プリズレン市の廃棄物管理能力向上を目的とした技術協力を2011年から続けています。今回、5月16日から26日まで、このプロジェクトに携わる関係者を日本に招待した研修プログラムが行われ、10名が参加しました。彼らは日本の様々な都市を訪問し、第一段階の廃棄物発生から最終段階の廃棄物処理までのプロセスを視察し、「捨てられた廃棄物を原材料へ」をモットーとする日本の廃棄物管理プロセスを体験しました。このプロジェクトは来年の8月までに続けられますが、今回の参加者が日本の技術やプロセスをコンボに移転できるようこれからも支援していきます。

<http://www.jica.go.jp/balkan/office/activities/kosovo.html>

研修NEWS



6月30日～7月13日
水道管理行政及び水道
事業経営A（1名）

6月19日～7月27日
中小企業振興政策



1名



3名



2名



6月15日～6月26日
IT教育近代化プロジェ
クトフェーズ2（6名）

5月8日～5月26日

地域振興（一村一品
運動）



2名



1名



その他のトピック

【コラム】 中国とバルカン地域

中国とバルカン地域との関係について簡単にご紹介します。

最近のアフリカ同様、バルカン地域においても中国勢の進出の勢いには目を見張るものがあります。政治レベルでも中国は多くのバルカン諸国と良好な関係を保っていますが、実はこれは最近始まったことではありません。東西冷戦の時代から、特に共産主義陣営の指導権を巡るソ連との競合関係上、中国はバルカンを戦略的に重要な地域とみなして、ユーゴスラビアのチトー政権やアルバニアのホジャ政権、ルーマニアのチャウシェスク政権と良好な関係を築いてきました。他方で、コンボに関しては中国は未だに承認していません。あくまでセルビアの「国内問題」と位置付けるスタンスです。

西ヨーロッパ諸国とは太陽光パネルのアンチダンピングなどを巡って激しくつばぜり合いを見せる中国ですが、バルカン地域は将来的な「西ヨーロッパへのGateway」と位置付けています。官民一体となって自国企業の進出を政府が強く後押しするという構図です。

その一部をご紹介しますと、今年の5月、中国企業（山東高速集团有限公司）とセルビア政府との間で高速道路の建設のための契約が締結されました。この道路は「欧州回廊11」と呼ばれる高速道路の一部で、ベオグラードとモンテネグロのBarとを結ぶ高速道路のうち、セルビア中部の約50kmの区間を建設するものです。総工費は3億3,400万USD（約331億1,300万円）です。この建設費用は中国輸出入銀行が融資します。それ以外にもセルビアではドナウ川にかかる橋や火力発電所の建設を中国企業が担っています。また、ボスニアでも火力発電所の建設に中国政府が融資することが発表されています。このプロジェクトを受注したのは東方電気（Dongfang Electric Corp.）という中国企業です。さらにモンテネグロでも火力発電所、高速道路の建設に中国企業が関わっているなど、エネルギーや道路整備を中心とするインフラセクターを中心に著しくプレゼンスを高めています。

HUMAN STORY



ボスニア・ヘルツェゴビナのスレブレニツァ地域では2006年3月からJICAが支援を行ってきました。この地域は激しい戦闘が行われたことで知られていますが、JICAの協力は農業への支援を通じたコミュニティの自立や和解を進めることを目標としています。信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクトに長期専門として派遣されていた山岸真希専門家の心温まるHUMAN STORYをJICAバルカン事務所ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jica.go.jp/balkan/office/information/event/130711.html>

Announcement

8月1日～16日 ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園参加型管理による保全と持続的利用プロジェクトカウンターパート研修

9月1日～10日 中小企業メンター制度組織化・普及促進プロジェクトカウンターパート研修

10月18日 JICA安全管理セミナー

赤と緑。トマトとキュウリが並ぶ彩きれいなベオグラード市内の市場。30度を超える日も多くなり、さっぱりしたものが食べたくなります。今の時期の、バルカン半島ではトマトとキュウリのサラダがお勧めです。

新鮮なサラダを味わいながら、秋に発行予定のBalkanNewsNo.3に向けてネタ探しを始めたいと思います。

編集後記